

# 第38回仙台・青葉まつり 写真コンクール

## 審査員講評

審査委員 門田 勲（河北新報社 編集局写真映像部）

伝書バトならぬ「伝書スズメ」。仙台・青葉まつりの熱烈なファンをそう例えるそうです。古里を離れていても、祭りの高揚感に誘われて飛ぶように帰り、踊りの輪に加わる。仙台・青葉まつり協賛会の方が教えてくれました。

新型コロナウイルス禍で中止を余儀なくされていた仙台・青葉まつりが3年ぶりに復活し、杜の都に仙台すずめ踊りの躍動と祭の熱気が戻りました。演者も観客も生き生きとした表情で「特別の時」を楽しみました。私もその1人です。そして待ちわびていたといえば「仙台・青葉まつり写真コンクール」。今年の審査会に小躍りしながら駆け付けました。

【プリント部】で特選に輝いた丹羽賢一さんの「いきいきと」は、レンズワークとシャッターのタイミングがすばらしい。子すずめの軽快な動きと笑顔に、ほれほれとさせられました。準特選の松田賢哉さんの「青まつ映え」はタイトルも視点もユニーク。コロナ下で祭を満喫するマスク姿の「シン・スズメ」が時代を映しています。

同じく準特選の遠藤淳さんの「轟」は、祭の迫力を見事に再現していました。

仙台の初夏を彩る風物詩を写すことができる喜びと誇らしさ。どの入賞作品にも撮影者の祭への愛情を感じました。

新設の【Instagram部門】は、斬新なアングルが印象的で「栄える」写真の出来栄えに感心させられました。交流サイト全盛の今、仙台・青葉まつりの魅力は国境を越えてネット上を飛び交い、世界中に発信されます。仙台の伝統文化に関心を寄せる「電脳スズメ」が1人でも増えてくれると、うれしいです。

来年こそは、多彩なスズメたちが自由に気兼ねなく集い、豪華な山鉦が連なる仙台・青葉まつりのフル開催を心より願っております。